

## 【機関情報】



ふくしまから  
はじめよう。

# 社会教育



## CONTENTS

### 【県主催事業紹介】.....2

- 子どもをはぐくむ家庭・地域支援事業
  - ・「子どもをはぐくむ地域実践プロジェクト」
  - ・「地域子育てサポートチーム養成事業」

### 【家庭教育論説】.....3

「これからの家庭教育支援」に向けた  
子どもとの関わり方  
福島県地域家庭教育推進協議会長  
桜の聖母短期大学教授 西内みなみ

### 【輝け！社会教育】.....4～5

郡山市立湖南公民館  
檜枝岐村立檜枝岐小・中学校PTA  
相馬市立桜丘小学校父母と教師の会  
石川地区社会教育委員連絡協議会長 菊地隆夫

### 【平成24年度社会教育関係各種受賞者】.....6

【平成25年度福島県社会教育施設行事予定】



# 《県主催事業紹介》

# 子どもをはぐくむ家庭・地域支援事業

## 子どもをはぐくむ地域実践プロジェクト

### 目的

家庭における子どもをはぐくむ環境づくりや地域教育力の向上に向け、現状と課題を踏まえ、子どもたちの生活習慣の向上に向けて実践的に推進する。

## 家庭や地域の教育力向上を目指す ~子どもたちの生活習慣の向上に向けて~

### 活動の実施

学校PTA・地域  
家庭の連携

＜地域との連携による事業実施＞

- ◆各学校PTA活動（親子事業・講演会等）
- ◆各家庭での取組（早寝早起き朝ごはん活動等）
- ◆地域での活動（夜間パトロール、見守り隊等）

県家庭教育推進協議会



### 現状分析・課題把握・研修原案作成

家庭教育推進ブロック会議  
地域家庭教育ブロックセミナー

＜各都市PTA連合会・地域代表による協議・研修（7地区）＞

- ◆ブロック会議：現状分析、研修内容協議  
子どもの生活習慣の現状と課題分析
- ◆ブロックセミナー：講義、事例研究等による研修  
課題別分科会による対策を協議

各  
教育  
主体  
と  
務  
所  
が  
実  
施  
す

各都市  
PTA連合  
(19地区)  
との協働

### 事業内容協議

県地域家庭教育  
推進協議会

＜プロジェクト推進に向けた協議・検証＞

- ◆構成員：PTA代表、企業代表、地域代表、学識経験者、各局
- ◆事業概要決定、推進のための協議（年2回）
  - 趣旨理解、事業内容・取組の方向性協議
  - 事業評価・検証

県PTA  
連合会  
との協働

## 地域子育てサポートチーム養成事業

### 目的

子育て力の向上に向けた取組みや子育てに不安や悩みを抱える保護者等の支援を行うため、子育て・家庭教育支援に携わる地域の人材を養成する。

## 子育て・家庭教育支援に携わる地域の人材育成

### 人材育成 地域子育てサポートチーム養成研修

＜地域子育てサポートチーム養成＞

- ◆研修：全体研修1日、県内7地区での地区別研修2日
- ◆受講対象者：
  - 各市町村において子育て・家庭教育に関心のある方、
  - 市町村担当者、家庭教育インストラクター、
  - 子育てサポーターリーダー 等

地域子育て  
サポートチーム  
養成研修



【地区別研修内容】

- 講義①「現代の問題・地区内の問題（乳幼児期～学童期）」
- 講義②「現代の問題・地区内の問題（思春期）」
- 講義③「発達障がい理解と相談について」
- 講義・演習①「各発達段階における子どもとの関わり方」
- 講義・演習②「求められる子育て支援」
- 実践発表「各地域団体・グループの活動状況紹介」

【全体研修内容】

- 講演①「家庭教育の重要性」
- 講演②「子ども達の現状と現代的課題」



# 「これからの家庭教育支援」 に向けた子どもとの関わり方

福島県地域家庭教育推進協議会長  
桜の聖母短期大学教授

西内 みなみ 氏



福島県教育委員会では、平成24年度から「地域子育てサポートチーム養成研修」を開催している。今年度は、全体研修を福島県農業総合センターで開催し、その後、県内7地区で地区別研修を2回ずつ行った。私は、その全体研修と地区別研修の前半7地区全てに参加した。

全体研修では、筑波大学監事・お茶の水女子大学名誉教授である、内田伸子先生から「子どものウソは『嘘』か？～子どもの創造的想像力を育てる親の役割～」についてと、独立行政法人国立病院機構仙台医療センター総合成育・小児科の田澤雄作先生から「映像メディアの幻想と弊害～むかつく・きれる・不登校の彼方にあるもの～」という講演をいただき、多くのことを学ぶことができた。

その成果を基盤に、県内7地区では、それぞれの地域に密着した問題意識を持つ方々が、「乳幼児期～学童期」「思春期」の発達に応じた支援の仕方等の講義を受けた。福島県地域家庭教育推進協議会では、のべ約700名の受講者という報告を受けている。

この取組みは、平成22年度に福島県教育委員会で作成した保護者のための家庭教育資料「家庭教育サポートブック」の定着と活用を図る意図も含まれていた。震災直前に実施した小学生へのアンケートを基に、教育庁社会教育課・学習指導課（現在の義務教育課及び高校教育課）・学校生活健康課（現在の健康教育課）、保健福祉部健康増進課・子育て支援課・児童家庭課、生活環境部青少年育成室（現在の青少年・男女共生課）、そして県警少年課が連携し創意工夫して作成した家庭教育支援資料である。震災によって、その定着と活用が遅れたが、完成して2年後、社会教育課によって、やっとその取組みが再開された。

あの大震災を経ても、なお、福島県には、こうした取組みを立ち上げる組織力とリーダーシップがある。そして、それに応える地域の学識者達、実践家さらに子育て支援サポーターになろうとしてくださるボランティアスピリッツがあることに感動した。

私たちは震災以降、子ども達もその保護者も傷ついている。また、疲労困憊し、不安があり、安心・安全な子育て環境とは言い難い。しかし、今回の研修全体を通して、福島県で生きる私たちが、子育て支援という営みを通して次世代を育みながら、私たち自身も癒やされていくことを最も感じる事ができた。

子ども達とその保護者に向き合いながら、お互いに回復力（レジリエンス）を高めていくことである。

子育て支援によって人々とのつながりや絆を持ち、安全・安心な信頼関係を築いていくことである。家庭が、子どもにとって心安らく居場所になるために、地域が、学校が、そして私たち大人が心安らく自分自身になり続けていく、あきらめない尽力が必要なことを、この取組み全体を通して、改めて痛感した。

## プロフィール にしうち みなみ

1981年 東京女子大学文理学部心理学科卒

1983年 東京大学大学院教育学修士号取得

現在 桜の聖母短期大学生活科学科教授

- 福島県地域家庭教育推進協議会長、文部科学省編「思春期の子どもと向き合うために」編集委員、福島県「家庭教育サポートブック」監修
- 主な著書として、「子どもに伝えたい 性・いのち」（福島県教育委員会）、「愛された自分に出会う時」（ドン・ボスコ社）などがあり、家庭教育の最前線で活躍中。





## 郷土や地域への愛着心を深め伝統文化等を再発見

郡山市立湖南公民館

福島県の中央部に位置する郡山市。その中心部より西部へ約30キロメートルのところに位置する湖南町は、168平方キロメートルの広大な面積を有し、日本最大級の風力発電所がある布引の高原をはじめ、様々な歴史的遺産や自然が残っています。

湖南公民館では、地域への愛着と伝統文化等を再発見する学習機会を設定し、住民同士や大人と子どもとの交流を積極的に行うなど、地域の活性化に大きな役割を果たしております。



▲ぐるっと湖南新発見事業

特色ある事業として、地域振興事業「ぐるっと湖南新発見事業」などがあり、歴史研究家等のガイドとともに、景勝地、文化財等を訪ね歩くなど、ふるさと再発見の機会を提供したり、児童生徒向けにバスツアーを実施したりなど、子ども達にも地元の歴史、史跡を伝えることで郷土への愛着心を深めています。



▲郷土の歴史を再発見

この事業を通し、住民が地元の良さに気づき、それを後世に伝えたり、外部に発信したりしていくことで地域の活性化につながっております。

## 小学校と中学校が連携したPTA活動の取組

檜枝岐村立檜枝岐小学校・中学校PTA

本会は檜枝岐小中学校の合同の組織であり、9年間を通したPTA活動を展開しています。

紹介したい1つ目として、自然体験・伝統文化継承への参画があげられます。小中学校9年間で子ども達は尾瀬学習や燧ヶ岳等の登山を体験します。本会では、ゲストティーチャーとして積極的に子ども達の学習活動を支援しています。また、スキー教室や郷土料理作り、檜枝岐歌舞伎などの講師として、学校と常に関わっています。



▲尾瀬学習の様子

2つ目は、児童生徒の安全への取組みをしています。子ども達が安全に過ごすための環境整備に力を入れています。育成委員会が中心となって危険箇所点検を行い、「村内安全マップ」を作成しています。マップは保護者などに配布して、地域全体で子どもを見守る体制となっています。

この度、優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。長年、協力してくださった方々からの地道な活動があったからだと感じています。今後も子ども達のために充実した活動を目指して努力していきたいと思っております。



▲保護者が講師





## 学校教育の活性化と地域教育力の向上を目指して

### 相馬市立桜丘小学校父母と教師の会

本校は、昭和31年創立の比較的歴史の浅い学校ですが、保護者1人1人のPTAへの所属意識が高く、PTA活動がとても盛んです。数ある活動の中から2つ紹介します。

1つ目は、親子ふれあい広場です。この催しは、親子共々、毎年楽しみにしている模擬店出展や縁日風ゲームが好評です。震災後は、原発事故の影響

で規模縮小を余儀なくされました。

「子ども達の明るさが復興の源」を合い言葉に、この活動を実施すること

ことができました。



▲「親子ふれあい広場」の様子

2つ目は、創立以来ベルマーク収集活動が盛んなことです。

児童と保護者が一体となり、収集の呼びかけや点数集計を実施しています。



その結果、▲「ベルマーク集計活動」の様子  
累計200万点を達成し、ベルマーク教育助成財団より表彰を受けることができました。今後も密接に連携を図りながら、学校教育の活性化と地域教育力の向上に積極的に貢献していきたいと考えております。

## 社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞して

### 石川地区社会教育委員連絡協議会長 菊地 隆夫

この度、文部科学大臣より社会教育功労者表彰の栄に浴し、身に余る光栄と恐縮し、関係者及び地域住民に心より感謝申し上げます。

教員退職後、平成7年より8年間公民館長に委嘱されました。初業務が10月福島国体のため、地区大会を5月開催に変更しなくてはならないことでの「激論」からはじまったことを覚えています。

その後地域住民から「マンネリ化打破」の課題をいただき、計画・実行・評価・改善に努力し、家庭教育・青少年教育・地域教育・生涯学習・社会教育等の改善へ波及。

土曜日、日曜日は、各種研修・講習に参画し、家庭教育・レクリエーション・ボランティア・男女共同参画・生涯学習・福島大学聴講生等で資格

を取得し、県南・県中教育事務所をはじめ各幼稚園・保育園・小学校・中学校・PTA・公民館等での講話やゲーム・歌・踊り・詩吟・剣舞・語り部等参画者に好評をいただきました。

昨年は、全国生涯学習東京大会で「学びの達人、遊びの達人称号」をいただきました。

全国社会教育大会では、連続の実行委員、懇親会では、剣舞「白虎隊」の披露ができ、多くの感動を味わうことができました。

今後も初心を忘れずがんばって参ります。





# 平成24年度社会教育関係各種受賞者 平成25年度福島県社会教育施設行事予定

表彰区分	被表彰者氏名・被表彰団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	○石川地区社会教育委員連絡協議会長 菊地 隆夫 ○元西会津町公民館長 斎藤 宏一	11月13日	文部科学大臣
優良公民館	○郡山市立湖南公民館 ○西会津公民館	11月13日	
優良PTA	○二本松市立油井小学校父母と教師の会 ○檜枝岐村立檜枝岐小・中学校PTA ○相馬市立大野幼稚園・小学校PTA	11月22日 7月31日	
地域による学校支援活動	○大玉村学校支援地域本部 ○鏡石町学校支援地域本部 ○本宮市ぬかざわ遊友クラブ(子ども教室) ○郡山市西田地区学校支援地域づくり	12月3日	
視聴覚教育・情報教育功労者	○吉川 貞司(NHK杯全国中学校放送コンテスト福島県大会実行委員長)	9月14日	
子どもの読書活動優秀実践 図書館・団体(個人)	○図書ボランティアの会(福島市)	4月23日	
社会教育功労者	○前喜多方市社会教育委員 佐藤 一男 ○前福島県立美術館長 酒井 哲朗	11月1日	福島県教育委員会
功績顕著な団体・施設	1 団体 ○只見町立只見小学校父母と教師の会 ○相馬市立桜丘小学校父母と教師の会 ○いわき市立内郷第一中学校父母と教師の会 ○塙町婦人会 ○須賀川市立博物館友の会 2 施設 ○郡山市立東部地域公民館 ○喜多方市松山公民館	11月1日	
全国社会教育委員連合	○安達地方社会教育委員連絡協議会副会長 後藤みづほ ○西郷村社会教育委員長 菊地 芳枝 ○いわき地区社会教育委員連絡協議会副会長 草野チエ子	10月24日	
日本PTA全国協議会	1 団体 ○南相馬市立大甕小学校父母と教師の会 ○いわき市立豊間中学校PTA 2 個人 ○前副会長 佐藤壮一郎 ○前副会長 羽金 潤子 ○前監事・研修委員長 染谷 昌彦 ○前教師代表理事 松本 伸一	11月22日	(社)日本PTA 全国協議会長
東北地区 社会教育委員連絡協議会	○國馬 善郎(郡山市) ○菊地 隆夫(石川町) ○宗像 勝男(田村市) ○鈴木きよ子(白河市) ○神山 敬章(いわき市)	11月1日	東北地区社会教育 委員連絡協議会

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
「子どものための科学読みもの展～みる・かんがえる・たしかめる～」 3月8日(金)～6月5日(水) 「信夫山の史跡写真パネル展(福島市こでらんに博覧事業)」 4月5日(金)～6月5日(水) 「宇游宇村(蘇る古代文字)」 5月3日(金)～6月5日(水) 「はるの朗読会～桜の花に想いを寄せて～」 4月21日(日)	「横尾忠則ポスター展」 4月20日(土)～6月16日(日) 「若沖が来てくれました～江戸絵画の美と生命展」 7月27日(土)～9月23日(月) 「ホセ・マリア・シシリア～福島の冬の花～展」 10月5日(土)～12月1日(日) 「河野保雄コレクション展」 2月8日(土)～3月23日(日)	NHK大河 特別展「八重の桜」 5月17日(金)～7月3日(水) 夏の企画展:震災復興・国立博物館コラボミュージアムin会津若松 「対決!恐竜展ティラノサウルスとトリケラトプス」 7月27日(土)～9月15日(日) 秋の企画展:「考古学からの挑戦～東北大学考古学研究所の軌跡～」 10月5日(土)～12月1日(日)	郡山自然の家オープンデー 9月15日(日) 会津自然の家あったかふれあいまつり 10月20日(日) いわき海浜自然の家秋のオープンデー 9月29日(日)

## 福島県社会教育委員

\* 任期:平成24年6月20日～平成26年6月19日

阿久津文作 伊藤行和 金子英昭 川島久美子 國馬善郎 小林清美 佐藤紀子 佐藤晴美 佐藤房枝  
 瀬田 弘子 新井田 萬壽子 箱崎紀雄 浜島京子 古川満里子 本間悦男 渡辺直也 (五十音順)

## 編集後記

復興元年だった昨年からは、県内各地で様々な催しや復興イベントが盛況に開催されました。大河ドラマ「八重の桜」も好調で、県内は復興しつつあることが実感されました。その反面、沿岸部では原発事故の影響から復興・復旧が滞っている地域も多く見られ、震災から2年が経っても、未だ不自由な生活をしている方々や県外避難を続けている方々も多い現状です。社会教育は、そのような状況下で、少しでも福島復興や復旧に役立つような働きかけをさらに積極的に推進していかなくてはなりません。人の力は、未来をつくる【てこ】となります。「ふくしまからはじめよう」を合い言葉に、さらに力を合わせて戮力一心(りくりよくいっしん)に進んでいくことが大切だと日々感じています。

平成25年3月25日発行

社会教育 No. 333

編集 社会教育課

発行 福島市杉妻町2-16